

議員が注目！ 大学生の声

バスを増便してほしい！

町内に本屋がほしい！



民生文教常任委員会が

委員長 羽鳥光博 副委員長 堀越真由子 委員 月田 均・備前島久仁子・浅見武志

群馬県立女子大学を訪問しました！



群馬県立
女子大学の
設置目的
(学則第1条)

広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、地域社会における文化の進展に寄与し、更に国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成することを目的とする。

沿革

- ・1980年(昭和55年) 4月 開学(前橋校舎 県立前橋高校跡地)
- ・1982年(昭和57年)10月 玉村校舎に移転



群馬県立女子大学
玉村町上之手1395-1
TEL 0270-65-8511(代表)

議会の視点 委員会の 報告

「学生が住みやすい町へ」議会の今とこれから

民生文教常任委員会は7月9日に群馬県立女子大学を訪問し、ボランティアについて学生の皆さんと意見交換をしてきました。

学業で忙しい中、授業の合間を縫って12名の学生さんが参加してくれました。1時間ほどの短い時間でしたが、全員の学生さんから意見や感想を伺うことができました。

委員会として大変勉強になり、議会として学生が住みやすい玉村町となるよう取り組んでいく必要性を感じました。

特に、大学生として『学習支援』や『読み聞かせ』といったボランティア活動に参加していることは、

事前に伺っていましたが、『青色防犯パトロール』や『献血推進サークル』で活動していることなど、多方面での活動をしていることに敬意を感じました。

また、学生からの要望で「大学の課外活動に参加しやすいように、女子大学と各駅間のバスを増便してほしい」「町内に本屋がほしい」などが挙げられました。特に、バスの増便は委員会も玉村町の公共交通について調査を行い、住民のニーズにそった公共交通をつくり上げることが望ましいと町に提示しているところです。引き続き、取り組んでいきたいと考えます。

みとも みえこ
三友美恵子 議員



教育

「こどもまんなか」の働き方改革を 求む

「私の視点」

学校の働き方改革は、教師の負担軽減により教育の向上を目指すものであると思うが、子供たちそして保護者の意見も考慮した「こどもまんなか」の改革を行うべきだ。

答弁（教育長）「こどもまんなか」に基づいて適切に推進

問「こどもまんなか」に据えた教員の働き方改革を行っているか。

答（教育長）「こどもまんなか」の教育推進と矛盾することなく、適切な推進に努めている。

問 学校の働き方改革と教員の意識改革は進んでいるか。

答（教育長）学校行事のスリム化、連絡アプリの活用、部活動ガイドラインに沿った部活時間の精選や部活動数の適正化に取り組んでいる。部活動の地域移行は、現在、野球部、ソフトテニス部、陸上部で取組が開始された。このような改革が、教職員の意識改革に確実に結びついている。

問 学校行事をどのような基準で削減しているか。

答（教育長）学習指導要領で示された基準に照らして内容を精査し、検討、実施している。その際に、地域や保護者、子供たちとの話し合いや連携が必要な場合は、連携を取り協議をして判断している。

問 部活動の地域移行について、生徒たちの意向はどの程度考慮しているのか。

答（教育長）実現可能なところから一步一步着実に進めているが、部活動の主役は生徒なので、今後は必要に応じて、地域移行を検討する段階の部活動について、生徒の意向調査の実施も検討したい。

問 今後、改革を進めるに当たり、人員の補強が必要と考えるかどうか。

答（教育長）学校現場における喫緊の課題の一

つに、自分の教室に入って、みんなと学習に取り組めない児童生徒が急増している状況がある。この問題を解決するための人員の補強は重要であり、実現に向けた検討を進める。

問 酷暑日が続き、外で遊べない夏休みをどのように考えるか。

答（教育長）来年以降も続くであろうことを考えると、子供たちの心身の健康の維持を新たに考える時代になっている。みんなで知恵を絞っていきたい。

小中学校のタブレット活用状況

問 タブレットの活用状況は。

答（教育長）教育活動において時間的、場所的、物理的にあった制限が、1人1台のタブレットにより解消が図られている。全国平均より高い使用頻度になっている。



部活動の地域移行が開始されたソフトテニス部